

平成28年1月27日

伊藤真純



2016/01/27

## KWC 絹の道 パート① 八王子～多摩境

日時 : 平成28年1月27日 (水)

集合 : JR八王子駅改札出口 10:00

コース : 八王子駅→八王子八日町交差点→片倉 (片倉城跡公園・住吉神社) →鍵水峠・大塚山公園

(絹の道の碑・道了堂跡<昼食>) →絹の道資料館→御殿橋→道標→永泉寺→小泉家屋敷

→坂木の社緑地→京王相模原線多摩境駅 19,000歩 13km (伊藤自宅含め24,000歩)

参加者 : 森山L・神谷SLを含め合計23名 青字 : 一般

【A班】 班長 : 伊藤真・神谷・平石・熊坂・奴田・平山・菊池・佐藤繁・小林俊・伊藤美・落合・市村 計12名

【B班】 班長 : 武倉・平林勝・志村・山田誠・中林・藤原和・深瀬富・小島ま・塩川慶・宮坂・森山 計11名

天候 : 快晴 (残雪有り)

平成27年11月25日(水)雨で中止になり今日に変更されましたが、快晴のウォーキング日和でした。しかし、東京都でも八王子駅で標高119m有り流石に屋根や道端に残雪が見られました。昨年KWC全国山古志ウォーキングの帰り群馬の富岡製糸場に立ち寄りしましたが、横浜港まで絹糸を運ぶ道「絹の道」八王子から横浜までを森山さんが4回に分けて企画されました。片倉城跡を出た後急な石段を登ると「絹の道」の標識もあり昔の面影を残しております。鍵水峠の道了堂で弁当を食べましたが、木々が伸びて日当り悪く展望も今一でしたが、巻頭の写真はその一番昔の「絹の道」面影を残しているところで、残雪も踏みしめながら歩いてきた出口、標識の有る所での集合写真です。八王子から横浜までの16号線道路標識は42kmとなっていました。 P1

【絹の道コースマップ】

八王子駅→八王子八日町交差点→片倉城址公園・住吉神社→鎌水峠（道了堂跡）→・大塚山公園（絹の道碑）  
→絹の道資料館→御殿橋→永泉寺→小泉家屋敷→坂木の社緑地→田端環状積石遺構→京王相模原線多摩境駅



参考：八王子～横浜「絹の道」



【JR八王子駅】



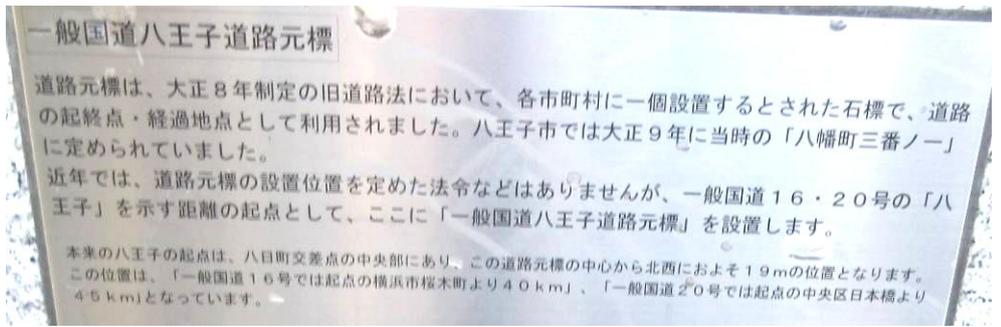
改札出口で森山Lと神谷S L 受付と資料渡し。北口西放射線ユーロードの先端に有る「横山町公園」



熊坂さんによるストレッチと森山Lコース説明。一般参加の宮坂さん紹介。人員点呼用A・B班編成名前読み上げ。伊藤A班班長記入のメモを戴く。A班平石さん途中で合流連絡あり。22名でスタート。



「八日町交差点」 20号線と16号線「八日町交差点」の起点に向かう。



16号線道路標識「横浜42km」山田川を渡り八王子医療刑務所の前から堀沿いに歩く。麻原彰晃も入獄？



刑務所堀沿いの雪道歩きにくい 1/21(木) 学習した水準点 子安坂上を通り、北野街道を通り抜ける。



京王高尾線片倉駅傍のガードを潜り抜ける。「湯殿川」綺麗な清流で鯉もいました。



【片倉城址】室町時代大江広元を祖先とする長井家によって築かれたようです。彫刻の公園です。



ここでトイレ休憩し、住吉神社参道急石段を登り、城址高台の公園と城跡を見ます。



高台が奥方の住まいで、ここから山里畑の眺め

高台から少し下に本丸がありその跡、まだ残雪



「片倉城跡」開設標識 ここで平石さん合流

【住吉神社】

**片倉城跡**  
所在地 八王子市外倉町二四二三  
指定 昭和二年三月一日 国指定  
平成二十一年三月三日 史跡指定

片倉城跡は、湯殿川と兵衛川の合流点を臨む北東方面に張り出した丘陵先端部に位置する中世城館です。北・東・南の外周部は約三〇mの急崖となっており、自然地形を生かした城郭です。西からの丘陵頂部は平坦ですが、深い空堀により画された主郭と第二郭からなります。現道の配置等から第二郭の西方にも堀切りがなされ、三郭からなる直線連郭式城郭であった可能性もあります。空堀により画された二つの郭には土塁や櫓台、腰曲輪、土橋などが良く残ります。

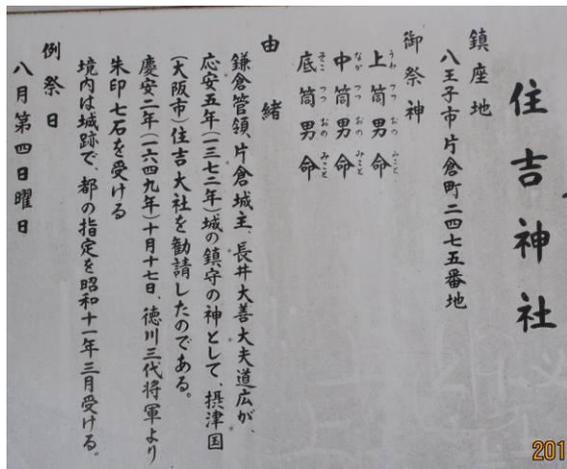
【新編武蔵風土記稿】などでは応永年間（一三九四―一四二八）の大江備中守師親の在城を記し、大江氏や大江氏の後裔の長井氏の城郭とされていますが、確証はありません。

築城主体や年代の特定は困難ですが、深大寺城跡などの他の中世城郭との比較から一五世紀後半以降に築城され、一六世紀代に廃城となったと推定されています。しかし、城郭としての配置や技法、古川越街道や鎌倉街道と隣接する交通の要衝であることから、小田原北条氏による築城や利用の可能性も指摘されています。



彫刻が素晴らしい。亀もいます。

住吉神社履歴 この後片倉城跡山麓からJ R片倉駅傍を通り、「絹の道」を歩くが標識はない。



「慈眼寺」を通り過ぎると、「絹の道」標識が有りましたが駐車場でした。緩やかな坂道登りです。



八王子バイパスを抜けると、待望の「絹の道」への石段。森山L「途中後ろを振り返りながら登って下さい」



今日初めて出会う「絹の道」看板 石段を昇りきるとこの眺めです。八王子の市街地が一望です。



「絹の道」らしい道です。12：16「昼食場所はまだ～」「もう少しで～す!」「この石段上が道了堂跡です」



【道了堂跡】昼食12：20～12：50 12,000歩 ベンチは有りましたが日当りの好い場所無し  
 鎌水商人大塚吾郎吉が中心になり、峠を通る旅人や村人の安全の為に見晴らしの良いこの地に1874年創建した。道了堂における幽霊の御話：「老婆のすすり泣き」1963年道了堂を管理していた82歳の老婆が強盗殺人に殺害された。「女子大生の霊」1973年不倫関係のもつれから大学助教授に殺害されこの地に埋められた。

道了堂の基礎石野跡

唯一陽のあたる場所を選ばれました

ベンチで



脚組スタイルで

熟男連はもう食事終わり

地藏さんの傍で



森山Lと何の御話？

眼下に綺麗に整列した住宅街、遠くは新宿？



午後の部スタート。孟宗竹林と落ち葉の絨毯、風情ある絹の道です。

残雪は凍っていて滑りやすい。



車の跡は雪が解けていて歩き易い



13:06 街道に合流し庚申塔の前で集合写真（人物主体で、神谷SL右が今来た道です。巻頭の写真も同じ）



【絹の資料館】到着13:08 生糸商人八木下要右衛門の屋敷跡に建てられた。復元ではない。



要右衛門は鎌水の石垣大尽と呼ばれた程で、門の石垣が素晴らしい。

小泉家の模型



昔の鎌水八木家が有った村の風景 (外人が撮った写真です)



資料館門を背景に集合写真



伊藤も証抛写真を撮影して戴きました

一級河川を渡る大栗川絹の道「御殿橋」



【御殿橋道標】「此方はしもと・津久井・大山」他の面「此方八王子」「此方町田・神奈川・ふちざわ」

【永泉寺】曹洞宗1555年武田家臣長野和泉開基。



【嫁入り橋】永泉寺近くの大栗川にかかっている橋ですが、面白い伝説。(森山Lの資料にも有ります)




 辺見じゅん著『呪われたシルクロード』によれば、嫁入谷戸についてはこんな伝承が語り継がれているという。昔、永泉寺近くの田に夜になるとどこからとなく鈴の音が聞こえ、美しい巫女が姿を現した。巫女は白い衣に緋の袴をひらめかせて舞い踊った。田毎に光のなか、巫女の舞は妖しく美しくかった。村人はその舞に心を奪われながら、次第に魔性の者ではないかと疑った。ある日、弓の達人な若者が選ばれた。巫女の現れる夜を待ち構えたが、村人の心を知ったか巫女は現れなかった。そして満月の夜、村人は田圃の中に舞台をこしらえると、豊年の年祭りに舞を奉納するため集まった。すると鈴の音が聞こえ、あの巫女が忽然と現れた。御幣を手にしながら舞い始めたのである。村人は恍惚として夢とつつの間をさまよった。そのときである。とつぜん一本の白矢が飛び、巫女の胸を射た。巫女は声もあげず倒れた。若者の放った矢だった。村人が駆けよったときには、巫女の姿は掻き消えていた。翌朝のことである。村人があたりを隈なく捜したところ、田の神を祀った葦の中に年老いた白い狐が、胸に矢を射抜かれ息絶えていた。このことから若者が巫女に矢を放った所を弓射り谷戸と呼び、これがのちに嫁入谷戸に転化したのだという。

【小泉家屋敷】現在居住されており、立ち入り禁止。表札「鑓水字浜道」浜道の地名あり 三階に蚕室

東京都指定有形民俗文化財  
**小泉家屋敷**  
 所在地 八王子市緑区二、二七八  
 指定 昭和十七年四月十九日  
 小泉家の三層(建築面積二平方メートル)は明治十年(一八七八)に再建されたものであるが、木造平屋建入母屋造、茅葺田の字形四間取りで、この地方に由来からみられる典型的な民家建築を示している。  
 屋敷地の面積は約三二・二メートル、南面した道路沿いは空地田畑地となり、背後の畑地から北側にかけては山林で次第に高くなり尾根に達している。  
 敷地内には三層のはか納屋・堆肥小屋・稲荷社・鮎家塚などが点在し、多摩丘陵地域の一般的農家の屋敷構・生活形態を知る上で貴重な民俗資料となっている。  
 文化財を大切にしましょう



【鑓水坂木の社緑地】この地域一帯は岩盤の層があり、槍状の尖った道具で突くと地下水が湧いてくる。竹で導き瓶に蓄え飲料水とした。この瓶から水を流すようにしたものを「遣り水」と云うが、これが「鑓水」と云う地名の由来のようです。



「水甫歩道橋」を渡り京王相模線多摩境駅へ向かう。新しい住宅とマンション群が目立つ。



京王多摩境駅近くの「お好み焼本舗」近くの交差点で解散し、アフター希望者熟男9名で入りました。

14:45～16:30「お好み焼本舗」では飲み物飲み放題の格安で、お好み焼きを我々で作り焼きながら良く飲み、KWC運営論懇談を含め盛り上がりました。感謝!感謝!その上健康的時間の帰宅でした。



編集後記：4回の「絹の道シリーズ」がスタートしました。昨年11月25日（水）雨天の為今日に順延されましたが、好天に恵まれたウォーキングでした。企画されたた森山L前半「絹の道」の標識がなく、神谷SLとの下見を含めご苦労様でした。残雪の路も味わうことが出来ました。鉄道が出来るまでの絹糸の輸送が思い浮かべられるウォーキングでした。その上格安アフターのお店を紹介して戴き、改めて厚くお礼申しあげます。次回は2月19日（金）パート②多摩境～町田が設定されています。

いつもの拙いボケ防止用日記帳「メモと写真」です。失礼な記述や誤記が有るかも知れませが悪しからずお許しの程。説明文はHP他から引用させて頂きました。